

- ◆ **再生稲(ひこばえ)を放置せず、早期に秋耕を行いましょう!** ⚠
- ◆ **再生稲は、斑点米カメムシの栄養源及びヒメトビウンカの越冬場所となります。速やかに耕起し、すき込んでください。**

- 稲わらをすき込む前に石灰窒素を20kg/10a施用することで、稲わらの腐熟を促し、地力の増強になります。
※施用した場合は減肥を行いましょう。



○斑点米カメムシ

- 上都賀地域の令和6年産米の2等以下の格付け理由は、斑点米が約6割を占めています。
- 今年は県南においてイネカメムシが多発し、不稔による減収や斑点米による米の品質低下など、大きな被害が出ました。
- 斑点米カメムシは、収穫後の再生稲(ひこばえ)をエサとして越冬します。
- 翌年の発生源となるカメムシ類の生息場所を減らすためにも、早期の秋耕を徹底しましょう。



○イネ縞葉枯病

- イネ縞葉枯病はコシヒカリで罹りやすく、穂の出すくみ(生育不良)や不稔となり、減収になります。
- 上都賀地域でも、本病に罹病した稲が見られました。
- 収穫後の再生稲(ひこばえ)は、病原ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息地になります。
- イネ縞葉枯病の被害が発生している場所は、イネ縞葉枯病抵抗性品種「とちぎの星」等の作付けを検討しましょう。



写真1 ヒメトビウンカ



写真2 穂の出すくみ

収穫後の水田管理が来年の高品質でおいしいお米の安定生産につながります。斑点米、イネ縞葉枯病の発生拡大を防ぐために、速やかに再生稲をすき込みましょう!!

